
端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

ヤマダゴロウ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

【著者名】

Z3105A

【作者名】 ヤマダ「ロウ

【あらすじ】

とても短い話です。恋愛…かなあ…?…きみとぼく。憧れ。希望。たまにはこんなのも。

いつも見る悪夢がある。
大抵は覚えてないんだけど、起きるといつも胸が締め付けられる
ような衝動にかられるんだ。

分かっているんだ。

君がいないことは。

分からぬいんだ。

どうして君がいないんだ？

「嫌いじゃない」

とか

「好感を持っている」

とかじや駄目なんだ。

ただ一言でよかつたのに…。

「好きだよ」

ねえ、君が好きなんだ。
好きなんだよ。

愛していたんだ。

その一言を、君に伝えられたら、何か変わつていただろうか。

物言わぬ君の亡骸を抱き締めながら、僕はただただ後悔の念にかられていた。

「こんな事になるのなら、もつと早く…っ！」

でも僕は、こんな事になるなんて思いもしなかった。想像すらしなかった。出来るわけないじゃないか。僕には君だけなのに…っ！」

何故ただそれだけの事なのに、あなたに伝えられなかつたのかなあ。

力サリと紙が捲られた。
伏せられた瞼から覗く君の瞳を見つめながら、ただただその時を待つ。

カサリ

「あんたさあ…。」「ん

諦めのようになじみ息を溢された。自然に肩に力が入るのを感じる。

「何が書きたかったわけ？」
「来た…。」「何が言いたいのよ？」
「はあ…。」「

「はつきりしないわね。」この文と同じだわ。だらだらだらだら書き綴れば良いってもんじゃないのよ。大体何? このまわりくどい説明。」

そう言つて僕の前にドンッ! ……と紙の束を投げ出した。

「書きなおしていらっしゃい

「はあ……」

また駄目だつたかと僕は溜め息をついた。もうやめよつかな。無意味だよ。才能がないんだ。

「あと……」

立ち去ろうとした僕を、彼女は呼び止めた。まだ何か言い足りない事があるのだろうか。勘弁してほしい。「前回よりは確實に上手くなつてゐる

そうして彼女は柔らかく笑むのだ。

「がんばれ

その一言で、僕は気分が浮上する。我ながらなんて単純……。まったく。僕は、確実に君の掌で踊つてゐるよ。なんていう事だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3105a/>

端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

2010年10月11日14時50分発行